

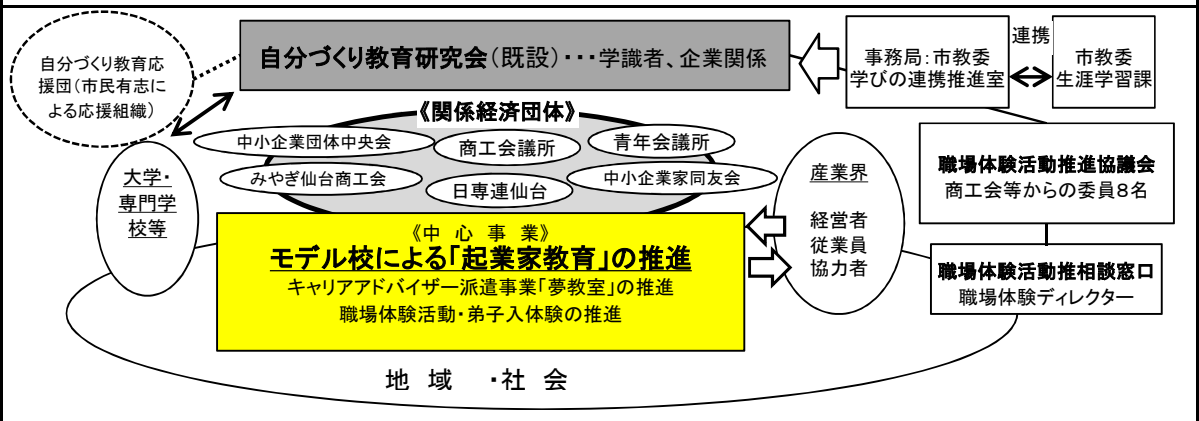
「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	仙台市教育委員会 学びの連携推進室
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<p>本市では、平成20年度より、小学校から高等学校までの発達段階に即して、児童生徒が自ら学ぶ意欲をもち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育む仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を推進している。</p> <p>関連事業としては、地域や社会とかかわる体験活動を充実し、子どもたちの将来の進路選択に生かすことを目的として、キャリアアドバイザー派遣事業「自分づくり夢教室」（社会人特別講師を小学校に派遣）や、中学生による3～5日間以上の職場体験活動、高校では、インターンシップの実施や外部講師を招聘してのキャリアセミナーの実施、更に専門高校では授業で身に付けた技術・技能・資格などを生かしたボランティア活動や小学校への出前授業などを実施している。</p> <p>その他にも、「たく生きプログラム」の開発（自分づくり教育の授業プラン）、「自分づくり教育研究会」（学識経験者、企業関係者による協議体）の設置、「楽学プロジェクト」（夏休み期間を活用した様々な職種の講師による体験等も交えた職業講話の開催）などに取り組んでおり、各事業の関連を図りながら、総合的に「キャリア教育」を展開している。</p> <p>さらに、平成26年8月には、体験型経済教育プログラムを学習する「仙台子ども体験プラザ」を開設し、協賛企業の協力により、一つの「街」を再現し、その中で、責任ある一市民として社会と自分との関わりや経済の仕組みを体験的に学ぶことができるようにしている。</p>
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<p>本市独自に実施している生活・学習状況調査では、「自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる」という項目が震災前に比べて低い傾向のまま推移しており、被災地の復興を担う子どもたちの意識向上を図るために、キャリア教育のより一層の充実が求められている。また、自己肯定感や進路への意欲の向上が期待できる起業家教育に対する認識について、十分な理解を得られていない面が見られる。</p> <p>起業家・経営者等の社会人講師による職業講話の実施率は上がってきており、将来の職業選択等のきっかけとはなっているものの、その経験をもとに起業体験（模擬会社等）まで実施している学校はほとんど見られない。</p> <p>中学生の職場体験活動においては、地域に商店街等があり、比較的受入れ事業所等が確保しやすいところもあれば、生徒数が多かったり、住宅地など周辺に事業所が限られたりしている学校においては、受入れ事業所の確保に困難を要している箇所も見られ、地元企業とのネットワークの形成が課題となっている。</p>
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	<p>モデル校：仙台市立荒巻小学校、仙台市立三条中学校 （その他の候補校：仙台市立柳生小学校）</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに、将来に対する夢をもたせ、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の起業家的資質・能力を育んだり、進路・職業に対する選択・決定の力を高めたりするための取組を推進する。 「職業講話」や「職場体験活動」「起業体験活動」等を通じて、地元商店会・企業や社会人と関わり、地域に愛着をもち、地域の創生、復興に尽くそうとする気持ちを醸成する。特に、モデル校においては、伝統工芸品が以前に比べ、衰退している状況を調べることを通して、自分たちも町おこしに参画できる喜びを味わわせるようにする。 起業家教育・起業体験の授業モデルプランを構想し、市内各小中学校への周知を図る。

取組計画	<p>1. 起業家教育の普及のためにモデル校を選定し、本市が提唱する「自分づくり教育」を基に、小中連携の柱として起業家教育の視点から取り組んだ実践をもとに、起業家教育推進のためのモデルプランを構築する。</p> <p>2. 市教委、学識者、企業関係者等からなる組織「自分づくり教育研究会」と連携し、子どもたちの将来の進路や職業に対する選択・決定力につながるためのプログラム開発について助言をもらう。</p> <p>3. キャリア教育・起業家教育の周知のために、実践報告書、パンフレット等を作成し、それらを広域に配布等を行うことを通して、啓発活動を行う。</p>
------	--

(1) 学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

① 実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



② 授業をサポートする団体(予定でも可)

荒巻商店街、荒巻小学校・三条中学校学校支援地域本部、地域町内会。
 仙台自分づくり教育研究会
 仙台商工会議所、宮城県中小企業団体中央会、協同組合日専連仙台、みやぎ仙台商工会、宮城県中小企業家同友会、仙台青年会議所等の市内の経済団体。

③ 取組内容

1. モデル校を選定し、本市が提唱する「自分づくり教育」を基に、小中連携の柱として起業家教育の視点から取り組んだ実践をもとに、新しく起業家教育に取り組む学校の参考となるように、モデルプランを構築する。

2. モデル校においては、以下の取組を行う。
 (1) モデル校の荒巻小学校は、平成14年度に経済省総合調査研究等委託調査において、地元の「松川だるま」等を素材に起業家教育を展開している。翌年、平成15年度には、放課後の活動「アフタースクール」において、「地域再発見＝郷土理解・郷土愛」のプログラムを実施し、桐の木を用いた置物と堤人形を製造し、その製品を地域のコミセン祭りで販売実践し、利益を寄付するという社会貢献活動にも取り組んでいる。さらに、平成27年度には経済産業省経済産業政策局新規産業室の「起業家教育普及促進事業」のモデル校として、地域に伝わる伝統工業「堤焼」と「松川だるま」が衰退してきている状況に対し、子どもたちが考案した町おこしやゆるキャラを素材とした商品開発を提案するなど、仙台市における起業家教育のパイオニア的な学校となっている。
 プログラム実施時間としては、主として総合的な学習の時間を活用しながら、特別活動等を活用し、地域の方へのアンケート調査や取材活動、製作、発表会(プレゼンテーション)に取り組んできた。また、まとめ等の活動については、国語科の「調べて分かったことをまとめ、発表しよう」などと関連付けたり、製作活動については図画工作科との関連を図りながら、教科横断的に総合的に取り組んできた。
 今後は、ここで得たノウハウを発展させ、子どもたちが進学する三条中学校と連携しながら起業家教育に取り組む予定である。三条中学校は、荒巻小学校とは小中連携をすでに進めており、小中学校間で連携した行事を実施したり、授業研究会に相互の教員が参加したりするなど、活発に交流を行っている。また、キャリア教育の点では、荒巻小学校での弟子入り体験活動を生かし、中学校では、地域の商店会の協力を得ながら、達人訪問という体験活動を行っている。

また、仙台の南部に位置する柳生小学校は、平成13年度経済省地域活性化推進委託費調査「アントレプレナーシップ教育プログラムの普及に関する東北的モデル検討調査」の支援を受け、課外講座「柳生子ども塾」(講師を地域の方に依頼し、昔遊びなどの講座を開設するもの)において、「柳生小バーチャルカンパニー」講座を開設し、その中で、ネット上の仮想企業を作り、商品開発を行っている。その実績をもとに、新たに柳生小学校をモデル校として指定し、藩政時代より伝わる伝統工芸である柳生和紙を素材に、和紙を使ったランプシェード作りに取り組み、柳生和紙のよさを地域の方々に広める活動に取り組みむこととしたい。

(2) 地域の伝統工芸品を製作している方から、伝統工芸品が以前に比べ、衰退してきている事実を知り、その課題を克服して伝統工芸品を守ること、消費者の新しいニーズに応じるために新たな製品を作るなど、創意工夫をしながら取り組んでいることを調べ、自分たちが考案する商品化の見通しを持つことができるようにする。また、商店会の代表の方からは、町おこしに係る様々な取組について話を聞き、商店街を活性化しようとする問題意識を持つようにする。

(3) 製作した伝統工芸品及び企画書等について、商店の方を招いてプレゼンテーションを行い、商品価値等の点から評価をしてもらう。町おこしに係る企画書については、商店会の方を招き、同じくプレゼンテーションを行い、実現が可能かどうか、予算的に無理がないかなどの点から評価をってもらう機会を設ける。場合によっては、経済団体からなる協議会で実践のプレゼンテーションを行い、モデルプランに向けての意見を聞く機会を設けるようにする。

(4) さらに、自分たちが製作した商品を実際に販売する機会を設け、消費者のニーズを把握する必要性や物を販売して利潤を得る大変さ等について学ぶようにする。

(5) 実践内容、成果等について、国語科の学習を生かしながら「実践報告書」「パンフレット」等の形にまとめ、それを広域に配布等を行い、市民及び企業に対するキャリア教育・起業家教育の啓発を図る。

3. キャリア教育・起業家教育の周知のために、モデル校の実践・モデルプランを取り入れた実践報告書、パンフレット等を作成し、それらを広域に配布等を行うことを通して、啓発活動を行う。

(2) 域内の学校に普及するための取組

① 域内の学校への普及方法について

モデル校による起業家教育の実践について、キャリア教育担当者研修会で紹介したり、「実践報告書」「パンフレット」等の形にまとめ、それを学校へも配布したりするなど、キャリア教育・起業家教育の一層の周知を図る。

② 地域・保護者等への周知方法について

子どもたちの製作した商品を実際に販売する機会を通し、起業家教育についての理解を深めるとともに、「実践報告書」「パンフレット」等の形にまとめ、それを広域に配布等を行い、市民及び企業に対するキャリア教育・起業家教育の啓発を図る。

(3) その他の取組

独自に実施している生活・学習状況調査において、キャリア教育・起業家教育と関わる項目を指標として設定し、その達成率から事業の検証を行う。また、企業、保護者、児童生徒等へのアンケート調査により、事業の検証に努める。なお、分析結果については、学校にも還元し、各学校の改善に生かすことができるようにする。

4. スケジュール	
実施時期	実施内容
4月	起業家推進校の選定, 事業説明。
5月	モデル校において, 学習活動を計画立案。
6月	商店会, 地域住民, 伝統工芸品製作者への調査活動。
7月	調査活動の分析。
8月	↓
9月	地元商店会, 伝統工芸製作者を招いての職業講話の実施。
10月	広報活動について外部講師を招いての学習会の実施。
11月	町おこし, 商品開発のための計画立案, 評価会のためのプレゼンテーションの準備。
12月	地域商店会, 伝統工芸製作者を招いての評価会の実施。
1月	商品価値・町おこしについての広報活動の準備。
2月	地域住民への販売活動を通して, 市民に対する起業家教育の周知を図る。
3月	モデル校の実践内容について市立小中学校へ周知。
5. 取組により見込まれる成果とその検証方法	
<p>・キャリア教育・起業家教育に取り組んだことにより, 子どもたちの自尊心・自己肯定感が高まり, 自信を持って取り組むようになる。 →生活・学習状況調査における指標とする項目の数値変化及びアンケートを実施し, 変容。</p> <p>・将来の夢や目標に対する前向きな姿勢を持つことができるようになる。また授業を展開するにあたり「チャレンジする力」「伝える力」「考える力」「協力する力」の4つの観点からの変容が期待できる。 →生活・学習状況調査における指標とする項目の数値変化, 授業における自己評価, 授業観察等による分析。</p> <p>・社会人講師, 企業関係者等と関わり, その教えを受けることで, 自分の将来に関して考える児童が多く, 将来の進路・選択を考える機会となる。 →体験活動後のアンケート(感想)分析。</p>	